

第九期
臨床仏教師養成プログラム

臨床仏教 公開講座

講座スケジュール

— オンライン受講選択可 —

第4講 6/12(木) 18:00～19:30

山谷地区における 医療の実践

— 差別のない平等のケアを目指して —

内容 失われた30年の中で経済的な格差が固定化し、地域には孤立し困窮する高齢者たちが多数存在します。山谷地区で医療を提供する訪問看護ステーションのご活動より、その現状と課題、求められるケアのあり方を学びます。

講師 平野 智子(訪問看護ステーションコスモス 所長)

第8講 9/11(木) 18:00～19:30

格差社会における 子ども支援

— 無償学習支援の現場から —

内容 日本の教育費に関する公的支出は、OECD加盟国中で最下位に近い水準です。子どもたちの7人に一人が貧困状態にあり、学習機会においても大きな格差が生じています。すべての子どもたちに教育の機会を担保する術を探ります。

講師 吉水 岳彦(ひとさじの会 事務局長)
石田 真理子(NPO法人 たいとこネット代表)

第1講 4/3(木) 18:00～19:30

森田療法と仏教

— 複雑化する社会におけるその可能性 —

内容 森田療法は、不安や悩みを自然な感情として「あるがまま」に自己をよりよく生かしていく精神療法です。それは、仏教の「無所住心」という教えや、禅の有り様と通底します。ストレスフルな現代社会の中で、その応用について学びます。

講師 中村 敬
(慈恵医大森田療法センター 名誉センター長)

第5講 7/3(木) 18:00～19:30

自然に育まれる子どもたち

— 大多喜南無道場40年の実践 —

内容 「カブトムシの電池が切れちゃった」という子どもの言葉に衝撃を受けたバブル景気の時代。山村寺院の特性を活かして、子どもたちに「いのち」との触れ合いの場を提供し、それぞれの仏心を育む山寺留学40年の実践より学びます。

講師 野坂 法行(大多喜南無道場 道主)

第9講 10/2(木) 18:00～19:30

仏教は環境問題に 応えられるか？

— 人体に取り込まれるマイクロプラスチック —

内容 マイクロプラスチック、PFASによる深刻な環境汚染は、私たちの生活様式に急転を迫っています。永久に分解されることのない微細な人工物は、すでに私たちの血液中に取り込まれていると言われています。「少欲知足」を旨とする仏教者の役割とは？

講師 窪川 香薫(帝京大学 客員教授)

第2講 4/24(木) 18:00～19:30

寺院における 地域包括支援

— 地域社会における高齢者支援のあり方 —

内容 高齢化が加速度的に進む中で、日本ではまもなく65歳以上の高齢者が3人に一人となります。医療資源が逼迫する中で、地域社会において高齢者の支援やケアが望まれています。寺院を含めた地域連携によるケアのあり方とは？

講師 東海林 良昌
(介護者サポートネットワーク・ケアむすび 代表)

第6講 7/24(木) 18:00～19:30

能登半島地震と 被災者支援

— 発災から1年半の足跡と明日 —

内容 光明皇后以来、千年の時を超えて伝えられて来た足湯は、菩薩の慈悲行の実践でもあります。能登、宮城、熊本などの被災地において、足湯傾聴ボランティアを継続してきた仏教者が、今、寺院や僧侶に問いかけることとは？

講師 辻 雅榮(高野山足湯隊 代表)

第10講 10/16(木) 18:00～19:30

グリーフケアと臨床仏教

— 今、生老病死に寄り添うこと —

内容 かけがえのない人や大切なものを失った時に経験する感情、グリーフ(悲嘆)。私たちはグリーフを抱える方々にどのように関わり、寄り添っていくべきなのでしょう。仏教者としてのグリーフケアのあり方について学びます。

講師 神 仁(臨床仏教研究所 所長)

第3講 5/15(木) 18:00～19:30

子どもの権利は 保証されているのか？

— 居場所を求める子どもたち —

内容 「子どもの権利条約」批准から35年。日本の子どもたちは、個々の権利を担保されているのでしょうか？貧困、虐待、性的搾取等、子どもたちを取り巻く環境は深刻です。子どもシェルターの運営に、今日的支援のあり方を学びます。

講師 相川 裕(カリヨン子どもセンター 理事長)

第7講 8/28(木) 18:00～19:30

アメリカの仏教 チャプレンシー

— “Not to do But to be” —

内容 目まぐるしく変化する人間と社会のあり方。その中で生老病死の苦しみと喘ぐ人びと……。アメリカの医療現場における仏教チャプレンの活動を踏まえ、臨床仏教師が、日本の医療福祉現場で果たすべき使命を説き明かします。

講師 古村 栄伸
(ペンシルバニア大学附属病院 元チャプレン)

私たちが生きる社会

私たちが抱く想い

生・老・病・死の「いま」を知る

「いま」を考える

人びとの「いのち」に 寄り添うために